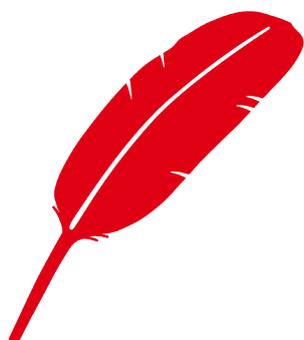


助け合い 広がる つながる 赤い羽根



ひょうご共同募金運動推進

2020年計画

2016-2020

別冊

PLAN SHEET

この別冊では、「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」を活用して、じぶんの市区町での運動をどう進めていくか、担当職員（管理職を含む）向けに解説します。

この別冊のプランシートを使って、重点目標と計画を立ててみましょう。

なお、具体的な「協働推進目標」や「基本方針」、「重点アクション」は、計画書の本体をご確認ください。

目 次

1	P D C A サイクルを回そう！ 【重点目標の設定フロー】	2
2	立場・経験別フローチャートで見るワークシートの使い方	3
3	「じぶんの町を良くする」共同募金運動の計画シート	4
	1) 共同募金運動の現状分析シート	5
	2) アクションチェックシート	9
	3) 計画シート	27
4	計画への反映	27
	おわりに	28

1 PDCAサイクルを回そう！

地域福祉を計画的に進め、さらに改善を図り、向上させていくためには、PDCAサイクルを意識した取組みの推進が大切です。

重点目標と計画を立てるために、まずは現状を評価・分析（Check）し、改善策（Action）を考えましょう。

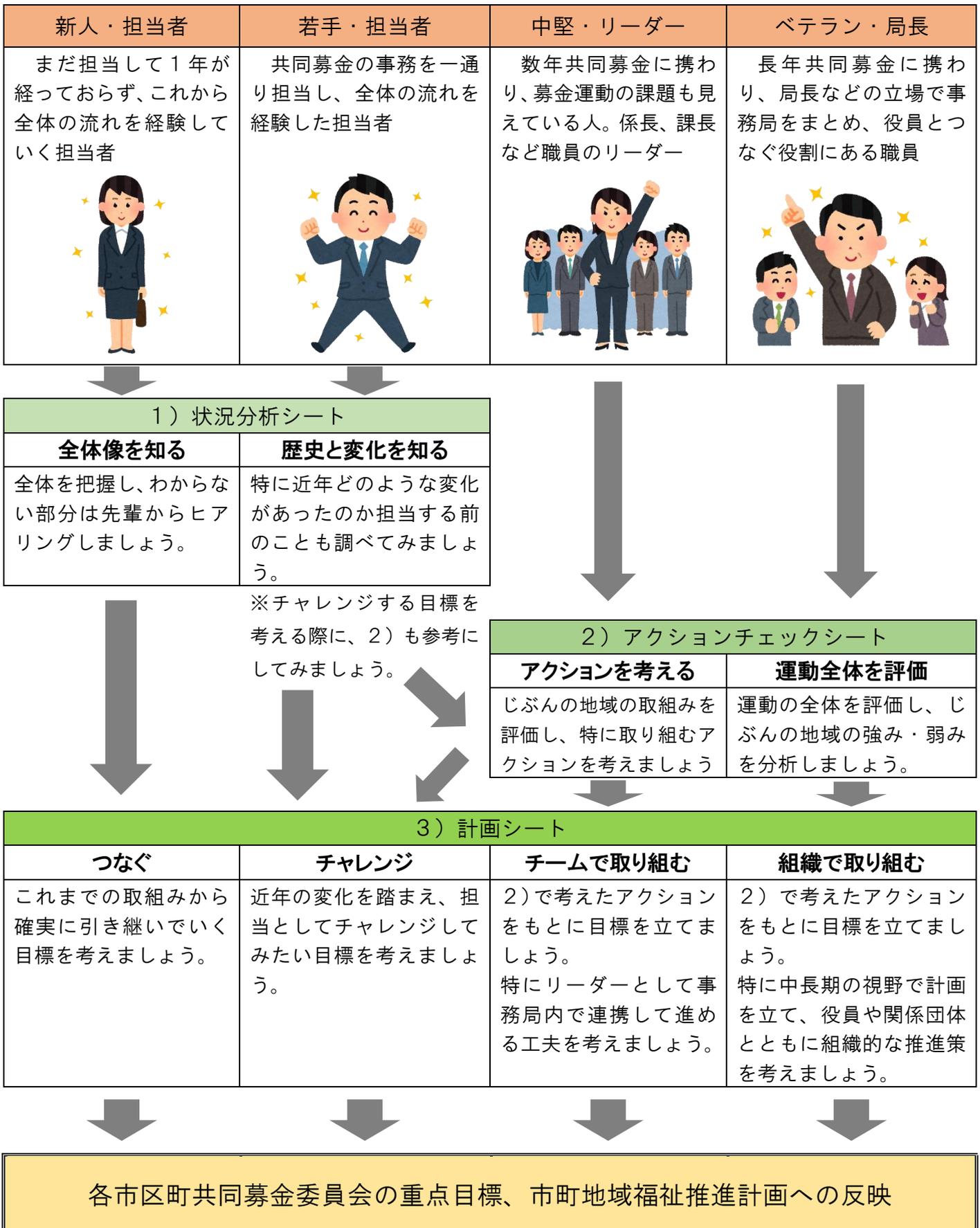


重点目標 設定フロー

①評価・分析 Check	市区町の共同募金運動の状況分析 ※ 担当して間も無く、市区町の共同募金運動の全体像が把握できていない場合は、1)の状況分析シートを使用して、全体の特徴を把握しましょう。
②改善 Action	重点的に取り組むアクションの選択 ※ 2)アクションチェックシートは、共同募金運動におけるアクション項目を基本的な項目から応用的な項目まで網羅的に整理したものです。各市区町で進捗状況や取り組むべき内容が違うため、これらの項目の中から重点目標を定めましょう。
③計画 Plan	進め方を考える <すぐに取り組めること> ○単年度の重点目標として掲げ、着実に進める。⇒(2)へ <大切なことだが、取り組むのには時間がかかること> ○複数年をかけて、どのように取り組むか計画を立てる。 (地域福祉推進計画への反映も考慮)⇒(3)へ
④実行 Do	※ 3)計画シートを活用して、各市区町の中長期的な取組みの見通しを立てましょう。立てた計画は、毎年の募金計画に反映させます。

2 立場・経験別フローチャートで見るワークシートの使い方

兵庫県内で共同募金運動に携わる職員は、様々な立場・経験の職員がいます。それぞれの立場でプランシートを活かして重点目標と計画を立ててみましょう。



3 「じぶんの町を良くする」共同募金運動の計画シート

各種シートについて

1) 共同募金運動の状況分析シート

じぶんの地域の共同募金運動を分析するシートで、「募金」・「配分」・「広報」・「組織」それぞれ1ページで構成されています。簡易的な内容となっていますので、必要に応じご使用ください。

(担当して間も無く、共同募金の全体像が把握できていない職員向けに作成しています)

※この別冊では、特に重要な点をふき出しで解説しています。

2) アクションチェックシート

共同募金運動におけるアクション項目を基本的な項目から応用的な項目までを網羅して整理したものです。各市区町で進捗状況や取り組むべき内容が異なるため、継続すべき事項や改善すべき事項などをチェックするためにご使用ください。

※この別冊では、課題の例、対応の例を削除し、独自に書き込むシートとしています。

3) 計画シート

アクションチェックシートで確認したアクション項目について、重点目標を選択し、推進の方法を整理するシートです。推進項目によって、シートに書き込むべき内容も変わってきますので、様式にとらわれずアレンジしてご使用ください。

1) 共同募金運動の状況分析シート

(1) 募金の状況を把握・分析しましょう

募金方法	5年前の募金実績	今年の募金実績	変化した理由
戸別募金	円	円	
街頭募金	円	円	
法人募金	円	円	
学校募金	円	円	
職域募金	円	円	
イベント募金	円	円	
その他	円	円	
合計	円	円	

特に変化した理由や近年の傾向を探ってみましょう。

<チェック項目☑>

募金の増減について、その理由が把握できている

戸別募金の依頼方法・ルート

募金協力員、協力団体	
協力員への依頼方法	
戸別募金の方法	<input type="checkbox"/> 個別訪問 割合等 () <input type="checkbox"/> 封筒募金 割合等 () <input type="checkbox"/> 一括徴収 割合等 () <input type="checkbox"/> その他 ()
募金資材・広報	

自治会等がどのように協力いただいているか把握していますか？

法人募金の依頼方法・ルート

募金協力員、協力団体	
企業等への依頼方法・依頼先数	
募金資材・広報	

学校募金の依頼方法・ルート

学校への依頼方法・依頼先数	
募金資材・広報	

街頭募金の実施

協力団体	
実施場所、回数	

(2) 配分の状況を分析しましょう

<方法・種類別>

方法・種類	事業内容	金額
社協直接実施事業		
社協以外の団体への二次配分		
要援護者等への物品等の配布		

<分野別>

分野	事業数	金額
総合・地域		円
高齢		円
障がい		円
子ども・児童		円
その他		円

<チェック項目☑>

- 過去3年での配分内容の変化

- 公募配分の実施と配分状況の変化（金額、団体数、内容など）

- 配分団体による共同募金のPR、募金活動への協力状況

特に変化した理由や改善を図った内容をまとめてみましょう。

(3) 広報・啓発の状況を分析しましょう

方法・機会	実施の有無	主な対象者・相手先
募金箱の設置		
街頭募金		
チラシ		
広報紙		
ホームページ		
ポスター・掲示物		
ダイレクトメール		
テレビ・ラジオ		
自治会等の会議・説明会		
学校での福祉学習		
イベント・研修		
その他		

<チェック項目☑>

- 募金の使いみちを広報している
- 配分先（団体・施設）などでも使いみちのPRをしている
- 子どもや若者など幅広い世代の人に向けた広報の内容

じぶんの地域でできていること、できていないことが把握できましたか？

- 「一般募金」と「地域歳末たすけあい募金」の違いを広報している
- 「地域歳末たすけあい募金」をPRするときに、わかりやすいテーマを掲げたうえで広報・啓発している

2) アクションチェックシート

このシートの見方

各市区町において状況を分析した上で、どのアクションに取り組むかを整理し、具体的な対応方法を考えるためのチェックシートとして活用できるよう構成しています。下記の留意事項を参照のうえ、各アクションをご確認ください。

1 配 分

①

②

③

④

分類(配分先・目的) アクション	評 価			現状の課題 (□課題の例)	課題への対応 (□対応の例)
	継続	改善	保留・その他		
(1) 社会福祉協議会への配分					
①組織運営の維持・運営にかかる配分を見直す				□社協事務費が多く、寄付者の理解が得られにくい	□社協事務費の財源を見直す
②今日的な福祉課題に対応した事業に配分する				□長年、同じ事業に配分されている	□社協の新規事業や重点事業へ配分する
③地域福祉推進計画に共同募金で重点的に支援する課題をとりあげる				□地域福祉推進計画に共同募金の内容が無い	□小地域福祉活動やボランティア活動など、計画で住民や募金協力者に身近な活動への配分を重点化する
⑤					

<留意事項>

- | | |
|--|---|
| <p>① 「アクション」は、簡潔な言葉で標記しています。各市区町共募で、アクションをもとに重点目標を定める場合は、適当な文言に置き換えて設定してください。</p> <p>② 「評価」は、「継続」、「改善」、「保留・その他」の3区分でチェックできるようにしています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「継続」・・・既の実施しており、このまま継続して行うアクション ・「改善」・・・まだ実施できていない取組み、又は実施しているが改善の必要があるアクション ・「保留・その他」・・・すぐには取り組めないため保留する必要があるアクション。又は、じぶんの市区町では、取組みの必要がないと判断されるアクション | <p>③ 「現状の課題」は、市区町の取組み状況と課題と思われる点をご記入ください。本計画書では、課題の例をチェックボックスとともに掲載していますが、市区町の状況に応じて課題を分析し、書き込んでください。</p> <p>④ 「課題への対応」は、アクションを進めるにあたっての取組みをご記入ください。本計画書では、取組みの例を掲載していますが、市区町の状況に応じてより具体的な対応をお考えください。</p> <p>⑤ 各アクションの最終行には空欄を設けています。各市区町が独自に取り組むアクションがある場合は、この欄をご活用ください。</p> |
|--|---|

1 配 分

分類(配分先・目的) アクション	評 価			現状の課題	課題への対応
	継続	改善	保留・その他		
(1) 社会福祉協議会への配分					
①組織運営の維持・運営にかかる配分を見直す					
②今日的な福祉課題に対応した事業に配分する					
③地域福祉推進計画に重点的に支援する課題をとりあげる					
(2) 福祉団体・ボランティア団体への配分					
①配分だけに終わらない関係づくりを行う					
②配分の見直しを行う					
③公募を行う					
④テーマや条件を定めた配分を行う					
(3) 小地域福祉推進組織・地縁組織への配分					
①無条件で画一的な配分を見直す					
②小地域で共同募金の活用についてPRを依頼する					
③小地域福祉活動の活性化の仕組みづくり					

分類(配分先・目的)	評価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(4) 福祉施設への配分					
①配分だけに終わらない関係づくりを行う					
②施設で募金の活用をPRする					
③地域貢献活動、地域公益活動活性化の仕組みづくりを行う					
(5) 要援護者の支援に対する配分					
①金品等の贈呈に関する改善を行う					
②配布物で共同募金をPRする					
(6) 災害救援に対する配分(県本部におけるアクション項目を想定)※市区町において共同募金による見舞金制度などを運用している場合は、空欄にアクションをお書きください。					
①迅速な配分に向けた改善					
②災害時の市区町共募への支援					

2 広 報

分類(広報の内容、対象、手段)	評 価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(1) 地域の福祉課題や福祉活動の理解、共感を広げる広報					
①身近な地域で使われていることをPRする					
②福祉課題を伝え、共同募金の役割とともに理解促進を図る					
③共感が得られるような、今日的な福祉課題へ配分する					
(2) 募金の趣旨を広げる広報					
①戸別募金における戸別訪問や封筒募金を積極的に実施する					
②計画募金、目標額など分かりやすく仕組みを解説する					
③募金協力員に対して共同募金の趣旨の理解促進を図る					
(3) 募金運動の成果、お礼を広げる広報					
①募金協力のお礼やありがとうメッセージの伝達を徹底する					
②完了報告、写真、メッセージなどから配分の成果を伝える					
③配分団体に受配表示や参加者へのアナウンスを徹底させる					
④配分団体が寄付者に直接お礼を伝える機会をふやす					

分類(広報の内容、対象、手段)	評価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(4) ターゲットを絞った広報					
①共同募金をテーマに福祉学習プログラムを開発し普及する					
②若者や子育て世代に向けた広報や活動に取り組む					
③ボランティアやNPO等と連携した広報に取り組む					
④企業・団体の社会貢献活動の受け皿をつくる					
(5) 年間を通じ、様々な場所で目に触れる広報					
①身近な場所で募金ができる機会を増やす					
②外部で共同募金が目に触れる機会を増やす					
(6) 多様な広報手段や広報媒体の活用					
①マスコミ機関や関係団体へPR協力を求める					
②インターネットを活用した広報に取り組む					
③映像や写真、マンガ等インパクトを与える手段を活用する					
④親しみを与えるマスコットキャラクターを活用した広報					

3 募 金

分類(募金方法)	評 価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(1) 戸別募金					
①丁寧に募金を依頼する					
②身近な地域で使われる募金の理解と仕組みづくりを進める					
③依頼地域を増やす					
(2) 街頭募金					
①募金活動のPR効果を重視し、効果的な方法で実施する					
②募金活動への参加の機会として幅広い住民への協力を仰ぐ					
(3) 法人募金					
①効果的な募金依頼方法や募金協力員の選出を考える					
②商工会、商工会議所等との協力体制を構築する					
③企業にとってのメリットのある募金を提案する					

分類(募金方法)	評価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(4) 職域募金					
①社会福祉事業者など、職域募金の依頼先を拡大する					
②募金資材(グッズ)を活用し、気軽な募金への工夫を図る					
(5) 学校募金					
①子どもへの共同募金の理解を促進する。					
②学校等との募金協力のための関係を構築する					
(6) イベント募金					
①共同募金委員会主催・共催のイベントを積極的に実施する					
②募金機関を拡大し、1～3月のイベントを実施する。					
(7) その他の手法による募金					
①インターネットを通じた募金方法を積極的に周知する					
②募金付自動販売機の設置を促進する					

分類(募金方法)	評価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(8) 新たな寄付者層の開拓、募金手法の開発					
①戸別募金等をつながない個人へアプローチする					
②共感が得られる募金の広報を進める					
③募金期間を拡大する(1~3月)					

4 組 織

分類(募金方法)	評 価			現状の課題	課題への対応
	アクション	継続	改善		
(1) 募金推進委員会の改革					
	①地域の多様な団体が参画できるようにメンバーを選任する				
(2) 共同募金活動費(事務費)の理解促進					
	①共同募金活動費の必要性について寄付者に理解を求める				
	②共同募金運動を進める職員の必要性について寄付者に理解を求める				
(3) 社会福祉協議会との連携					
	①社協と連携して地域福祉活動の把握と共同募金財源による支援方法について論議を持つ				
	②地域福祉推進計画に沿って、募金計画に共同募金で重点的に支援する地域福祉課題をとりあげる				
(4) 募金計画の策定					
	③共同募金委員会における重点目標を定める				
	④広域配分についても、住民・寄付者に理解の得られるよう情報提供する				

3) 計画シート

〇〇〇共同募金委員会の重点目標

--

1 重点目標を設定した理由、課題の現状

--

2 重点目標を達成するための活動項目

1)
2)
3)

3 年次計画・達成目標

活動項目	H28	H29	H30	H31	H32
1)					
2)					
3)					

※ 本計画シートで立てた重点目標と活動項目について、共同募金委員会で共有しましょう。

※ 重点目標を複数設定する場合は、本シートをコピーしご使用ください。

4 計画への反映

(1) 募金計画(単年度)での目標設定

毎年の共同募金運動を進めるにあたり、市区町共募では、「募金計画(事業計画)」を立て、「募金目標額」や「配分計画」を定めます。

また、運動をより充実させていくために、募金計画の中で、各種募金活動の方法(時期・場所・回数等)だけではなく、今年度の重点目標や新規の取組みなどを盛り込むことが大切です。

募金計画(単年度計画)に必要な要素



- 募金計画を、各共同募金委員会で協議し、策定する。
- 各市区町の募金目標額とともに、重点目標、配分(充当)計画を県共募でとりまとめ、全県的に募金運動を強化していく。

募金計画のフォーマット(例示)

平成〇〇年度 〇〇市共同募金委員会 募金計画(又は事業計画)
● 事業方針(又は、趣旨、基本方針など) ・ <u>平成〇〇年度 重点目標(又は、重点項目、重点事業など)</u>
● 募金目標額
● 事業実施計画 ・ 募金活動の方法、期間、回数、場所などの具体的内容 ・ その他、組織運営、配分、広報などの取組み
● 配分計画 ・ 社会福祉協議会等からの受配要望、配分計画

※各項目等の名称や記載の順番は、各市区町でこれまで立ててきた計画をもとに設定し、足りない要素があれば追加してください。

(2) 地域福祉推進計画(中長期計画)への反映

各市町社協では、地域福祉推進のための中長期計画として、「地域福祉推進計画」を立てています。地域福祉の推進方策と一体的に共同募金運動の推進を考えるとともに、単年度では解決できない課題に取り組んでください。

地域福祉推進計画の策定とともに考える要素

- 地域福祉を進める財源としての共同募金をどう活用するか
- 地域福祉の参加の手立てとして共同募金運動をどう展開するか
- 地域の福祉課題や助け合いの大切さを伝える広報・啓発活動として共同募金運動をどう展開するか

など

(3) 取組み後の成果の分析・評価と報告

事業報告では、募金結果だけでなく、計画段階で重点目標として掲げた事項等に取り組んだ成果を報告することも大切です。取組み後の成果を分析・評価し、次年度以降の共同募金運動につなげていきましょう。

おわりに

このプランシートで立てた重点目標や計画は、担当者のみで終わらせることなく、事務局内や共同募金委員会で共有して組織として推進していきましょう。

そのために、共同募金委員会の事業計画や地域福祉推進計画などへの反映、職員会議や共同募金委員会における協議につなげていただきますようお願いいたします。

また、この取組みが継続されるよう、1) 状況分析シートや2) アクションチェックシートで評価・分析した市区町共同募金委員会の現状は、後任の担当者や管理職、新任の委員等とも共有し、重点目標の進捗についても確認をしていきましょう。

市区町共同募金委員会専用ページから、2020年計画関連データがダウンロードできますので、ご活用ください。

- 2020年計画（全体版） 【PDF】
- 2020年計画（ダイジェスト版） 【PDF】
→募金推進委員や協力員への計画の普及にご活用ください
- 2020年計画別冊 プランシート 【PDF】
→重点目標、計画を立てる際にご活用ください
 - 1) 現状分析シート 【Word】
 - 2) アクションチェックシート 【Word】
 - 3) 計画シート 【Word】

＜参考＞ 中央共同募金会 70年答申
 参加と協働による「新たなたすけあい」の創造
 —共同募金における運動性の再生—

70年答申における「共同募金の運動性」とは

1 運動を通じて地域課題の解決を図る

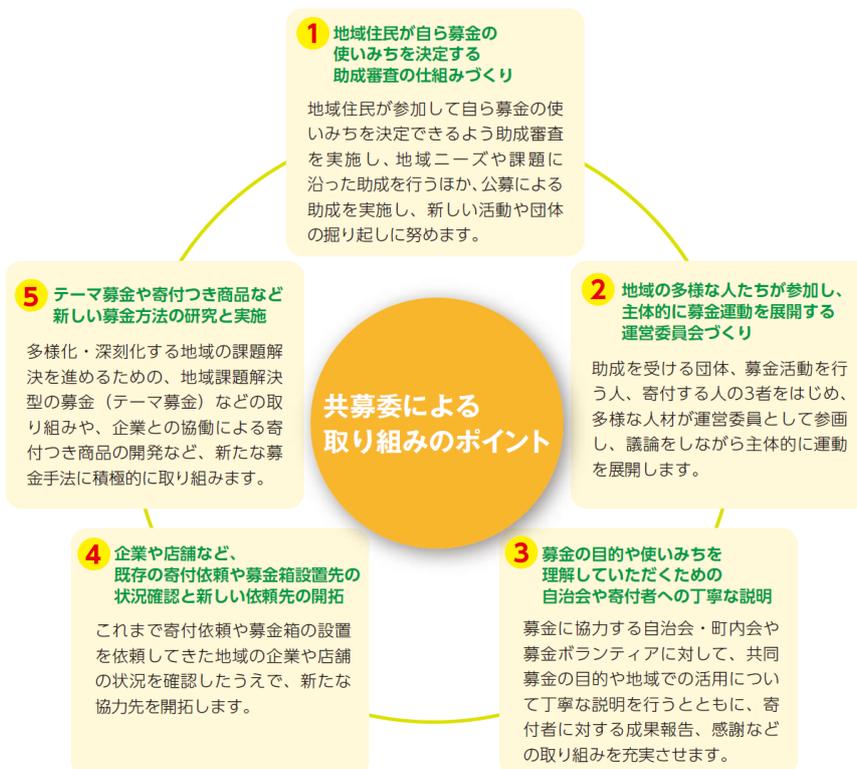
共同募金運動を通して、地域における課題を明らかにし、その解決策や活動を企画・実施することによって課題の解決を図る。そうした課題解決の積み重ねを地域や社会の変革につなげる。

2 地域住民の参加と、地域課題や活動への理解を促進する

福祉活動を行う人や団体、課題を抱える人や団体などを含め多様な人や団体が運動に参加し、運動を通じて地域の課題を伝え、人びとに気づきや理解、共感を促し、より多くの住民の活動への参加や募金への協力を得ていくこと。また、運動への地域住民の参加は、地域の課題や福祉活動に関する関心や理解を高める、「福祉教育」の機能を果たす。

3 助成や募金を通じた福祉活動団体の基盤づくり

地域福祉推進に関わるさまざまな人や団体が、共同募金の助成を通じて運営や活動の基盤をつくり、運動への参加経験をもとに自ら寄付を集めるためのノウハウを蓄積し、自立できるよう支援する。そうした組織としての「運動性」を活性化させていくことが重要となる。



社会からの信頼に応える共同募金であるために共同募金会職員行動原則

共同募金に携わる職員が業務を行う際に守るべき原則として、一人ひとりの職員が自信と誇りをもって業務にあたることにより、共同募金が地域社会の信頼を得ることを目指して、中央共募及び県共募は、推進方策と合わせ行動原則を策定しました。

県共募及び共募委の職員がこの行動原則によって共同募金の社会的な公器たるべき価値観を共有し、募金活動や寄付に参加する地域住民を始め、助成を受ける団体や関係機関・団体などからの信頼や共同募金運動に対する社会からの期待に応えることで、共同募金が地域社会の共有財産として今後さらに発展し、地域福祉の推進と日本における寄付文化の発展につなげるものです。

共同募金会職員行動原則

1. 住民参加と連携・協働による社会課題の解決

私たちは、共同募金における寄付、募金、助成など、あらゆる場面における住民の参加を大事にし、ボランティア団体・NPO、企業などとの連携・協働により運動を推進し、社会課題の解決を図ります。

2. 福祉コミュニティづくり

私たちは、住民が身近な地域における福祉について関心をもち、寄付や募金活動、福祉活動に参加する、住民主体による福祉コミュニティづくりをめざします。

3. 地域福祉活動を行う団体の支援

私たちは、共同募金による助成や募金運動を通じて、地域福祉活動を行う団体の活動や地域の課題を地域住民に対して知らせることで、活動及び団体の認知を高め、それぞれの団体の組織基盤づくりに貢献します。

4. 寄付、募金、助成の基盤づくり

私たちは、さまざまな募金、助成団体と連携し、新たな募金方法や助成プログラムの開発、提言活動や計画づくりの取り組みに積極的に関わり、地域における助成、募金、寄付の基盤づくりの役割を担います。

5. 運動に参加する人への感謝

私たちは、寄付者、募金活動を行う人、助成を受ける団体など、運動に参加する全ての人の思いを大切にします。

6. 自己研鑽、チームワーク、チャレンジ精神

私たちは、地域の課題を率先して把握して解決を促すべく自己研鑽を重ね、職員同士の連携をすすめ、チャレンジ精神をもって業務を遂行します。

7. 法令遵守、説明責任

私たちは、公序良俗に反し、また、プライバシーを侵害することがないよう、法令を遵守し、共同募金の使途及び自らの組織・事業に関する説明責任を果たし、信頼され開かれた運動を展開します。



【別冊】ひょうご共同募金運動推進 2020 年計画
2016-2020 PLAN SHEET
発行年月：平成 29 年 2 月
発行：社会福祉法人 兵庫県共同募金会